

令和7年度【2025年度】

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	このえ豊玉北保育園
施設所在地	港区港南2-15-3 品川インターシティC棟12階
事業者名	株式会社なないろ

1. 活動のテーマ

<テーマ>

【声・音・動き・安全計画（食物アレルギー）】

<テーマの設定理由>

（テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など）

食物アレルギーがとても身近な存在になっている近年の社会で大人だけでなく、子ども達にも楽しみながらアレルギーに関する正しい知識や興味・関心を持ってもらうため、本テーマを設定した。

本園では「なかよし給食」を取り入れ、食物アレルギーに対する考え方を保育の中で大切にしてきた。日々給食やおやつを提供をしていく中で、アレルギー児がいることでトレーや食器、配置の違いについて子どもたちから「なぜ」という疑問の声が多く上がっていた。現在、多種多様なアレルギー児が在園している環境と、園内での対応の仕組みを活かし、「食物アレルギーとはどんなことが起こるのか」「どんな行動が自分やみんなの命を守るのか」を視覚や微細運動を通して分かりやすく伝える事をねらいとしている。

2. 活動スケジュール

随時：すくわくプログラムへ参加する為に勉強会を実施。

随時：本部保育責任者とともに活動内容とねらいに対する視点合わせを行う。

随時：微細運動教具を制作するにあたり、子どもの興味関心・微細運動の種類について担当者間で協議する。

随時：子どもたちが分かりやすく、親しみやすいような絵本・ストーリーを考案・作成し、映像などの保育教材として準備する。

順次：個々の発達、年齢に応じてタペストリーや絵本を用いて食物アレルギーについて知る機会を設ける。

継続：タペストリー・絵本を随時子どもたちの手に取れる所に置き、主体的な遊びの姿を観察・記録する。映像をもとに職員間で振り返りを行い、保護者へのドキュメント共有へと繋げる。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）

子どもたちに馴染みのある「絵本」「タペストリー」を用い、おやつや遠足など、日常の保育場面に落とし込んでイメージしやすい環境を設定した。また、教具の中に「チャックの開け閉め」や「スナップの取り付け」といった微細運動の動きを取り入れ、手先を動かしながら「食物アレルギーに対して自分やみんなをどう守っていくことができるか」に気付けるような仕組みを用意した。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

3歳児対象に行う

1回目：「食物アレルギー」とは何かを絵本を用いて問いかけ、子どもたちが各々思うアレルギーについて意見を述べる。その後、絵本と同じ内容の貼れるパーツを用意し思い思いに並べたり貼ったりする体験を行った。

5歳児対象に行う

1回目：絵本を用いてアレルギーについて問いかけ、自分が思うアレルギーについて意見を話す。その後、3歳児と同様にパーツを用意し子どもたち同士で話し合いながら配置を決めてタペストリーに貼る活動を行った。

2回目：前回学んだ食物アレルギーの内容について振り返りを行う。またタペストリーを使用して、絵本の内容を再現する遊びへと発展させた。

※これらの活動は記録として映像や書面に残し、「なぜ?」「どうして?」と知識を深めていく過程を可視化した。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

3歳児：保育者が「(アレルギーが出たら)気持ち悪そうな顔してるね」と問いかけると絵本と同じように気持ち悪そうな表情を真似ていた。また、教具のパーツを数える際には、指を動かしながら一生懸命に数える姿が見られた。子ども同士の関わりでは、「このお皿が良いんじゃない?」「大変、こぼしてるよ」と言って雑巾を渡して拭く真似をしたり、「バシャってなってるよ」と状況を共有したりする微笑ましい姿が見られた。

5歳児：アレルギーとはどういう事か問いかけると「普通の人は絶対に食べられるけど、その中の誰かは食べたら悪いことが起きる」本質を突いた説明をしており、理解の深さに驚かされた。タペストリーの活動では、「先にどこか決めておいた方が良いね」「この人はアレルギー対応しておくね」とパーツの配置を相談する様子が見られた。2回目では、「ワゴンどこ置く?」「お茶はここに置こう」「お菓子は1人2枚ずつね」と日常の保育風景をリアルに再現しながら話し合う姿が見られた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

食物アレルギーという題材は保育者としては身近で専門的な事柄であるが、子どもたちに問いかけてみると、それぞれの子どもなりの「解釈」や「見え方」があることに気付かされた。子どもたちが自分たちなりの理解で発する言葉から、大人が行っている日常のアレルギー対応(ワゴンやお皿の配置など)の光景が、子どもたちの目にどのように映っているのかを深く考えさせられる貴重な機会となった。

活動後、映像をもとに子どもたちが話していた内容や保育者の問いかけを複数人で確認・記録し職員同士で次への展開や声掛けの仕方について意見交換を行った。今後はドキュメンテーション等を作成し、この豊かな探求のプロセスを保護者とも広く共有していきたい。